

ハーモニー

Harmony

第69号 2015年12月20日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

第23回学術集会（熊本）の報告とお礼……………1	2015年度総会報告（速報）……………6
第23回学術集会を終えて……………2	2016年度研究助成金研究ならびに第23回学術集会
学会参加者の声……………3	「投稿奨励研究」選定報告……………7
第23回学術集会プレコンgres報告……………3	学会誌第20巻第1号投稿原稿の募集……………7
私の県の「ここが特色」⑩……………4	2015年度第2回理事会議事録（概要）……………8
「私の実践と研究」リレー・レポート⑩……………5	事務局より……………8
トピックス……………6	編集後記……………8

第23回学術集会（熊本）の報告とお礼

学会長 松田 芳子（熊本大学教育学部）

2015年10月10日～11日に開催しました日本養護教諭教育学会第23回学術集会には、全国より350名余の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

メインテーマは「学び続ける養護教諭であるために～養成・行政・学校現場をつなぎ、広げ、深める～」といたしました。教職生活の生涯にわたり、学び続ける養護教諭であるために、養成・行政・学校現場の各々がその役割を果たしつつ、円滑につながり、さらに連携・協働が機能していくにはどのような課題や方策があるのかを本学術集会全体を通して一緒に考え、深める機会にできたらと考えました。学術集会のテーマに沿い、学会長講演、鼎談とそれに続くシンポジウムは一貫した内容で進め、経験年数にかかわらず、養護教諭の役割を常に考え、自ら学び続けていくとは？ということを念頭においた企画としました。参加者の皆様が、それぞれの立場や、ライフステージから自分のこととして真摯に受け止められたことを皆様の声より感じる事ができました。この趣旨は概ね達成されたのではないかと考えます。

特別講演は、本学学長原田信志氏より、「感染症と社会」のご講演をいただきました。また、教育講演は、早稲田大学教授本田恵子氏より、「キレやすい子へのアンガーマネジメント～脳科学からのアプローチ～」のご講演をいただきました。一般演題は、口演19題、

ポスター15題のご発表があり、各会場では白熱した討論がなされ、相互の交流が深まっておりました。2日目の午後は、ワークショップ「携帯電話・スマホの使用について」、「養護教諭の資質向上のための研修づくり」、「論文、実践研究の書き方、まとめ方」の3題でした。最後まで会場は参加者の方の熱気にあふれ、活発な交流がなされておりました。1日目のプレコンgres「養護教諭の資質向上について」から始まり、2日間を通して、養護教諭の資質向上に向けて「学び続ける・・・」学術集会ではなかったかと思えます。

11年ぶりの九州での開催となる熊本大会で、熊本を感じていただきたく、運営にも、実行委員一同、アイデアを出し合い、準備を進めてまいりました。学生スタッフも、熊本大学、九州看護福祉大学合わせて延べ100名近くが関わらせていただきました。学生にとりましても、学会の雰囲気を感じることができ、先輩の方々と交流し合う大変貴重な機会となりました。ご不便をおかけすることも多々あったかと存じますが、皆様のご協力により、学術集会を終えることができましたことを、重ねてお礼申し上げます。

最後になりましたが、本学術集会の企画の段階から理事長はじめ理事会の皆様、会員の皆様より多くのご指導とご協力を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

今後の学会の発展と第24回学術集会のご成功を願い、九州から北海道につながります。

第23回学術集会を終えて

事務局長 古賀由紀子 (九州看護福祉大学)

10月10・11日の両日ともお天気にも恵まれ、無事全日程を終了することができました。これもひとえに、ご参加くださいました皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

さて、今回の学術集会の運営は、熊本大学、九州看護福祉大学、熊本県内養護教諭で実行委員会を組織し、学術集会にご参加いただく皆様にも満足いただける内容にしようと、何度も打合せを行い準備してまいりました。また、当日スタッフとして熊本大学および九州看護福祉大学の学生が運営のお手伝いをしながら学会という場を経験させていただきました。

学術集会の会場は熊本駅前ということで、「わかりやすかった」「来やすかった」との声が多く聞かれました。近年熊本駅周辺が整備され、交通の便、近隣レストラン、昼食の調達等皆様に利用しやすい環境であったと思います。

内容や時間配分などに対してのご意見もありますが、「学生さん、運営者の方々がいたる場所において、質問しやすかった」「学生スタッフの対応が素晴らしかった」など、温かいお言葉をたくさんいただきました。実行委員の多くは、現場で養護教諭として勤めながらの準備となりとても大変でしたが、学術集会が無事終わり、ほっとするとともにやって良かったという感想がほとんどでした。

最後となりましたが、講演講師、シンポジウム関係の方々、座長をお引き受けくださった先生方、理事長・理事をはじめとする会員の先生方、そして、学術集会にご参加いただいた、すべての皆様に感謝申し上げます。

今後の学会の発展と第24回学術集会のご成功を願い、学術集会の報告とさせていただきます。

<学術集会アンケート結果>

学術集会の際にいただきました、貴重なご意見をまとめましたので、ご報告させていただきます。

【回答数42名】

1. 本学術集会をどのようにして知ったか(複数回答)

[日本養護教諭教育学会誌 (28.5%)、機関紙「ハーモニー」(26.2%)、学会のホームページ(19.0%)、雑誌等(16.7%)、本学術集会のチラシ(26.2%)、知人の紹介(14.3%)、いつも参加している(7.1%)]

2. 興味を持った内容(複数回答)[上位5つ]

[シンポジウム(52.4%)、教育講演(47.64%)、ワークショップ(47.64%)、特別講演(42.9%)、一般演題(口演)(35.7%)]

3. 本学会の運営についての自由記述(会場・スタッフの対応・スケジュール等)

<アクセス> 駅が近く参加者には便利でした。会場も広く良かったです。

<学会長講演> 養成の現状が分かりとてもよかったですと思います。

<講演> 1時間では短かった。

<シンポジウム> 大変素晴らしかった。今までにない構成で誰もが自らの課題に当てはまるものだったと思います。

<スタッフ> 細やかな心遣い丁寧なスタッフ、学生の皆さんの対応、くま蒙のバッジ、玉名の美味しいトマトとみかんいずれも最高でした。

<その他>

・スケジュールはもう少し余裕を持たせた方が良くのではないかと思います。

・講演中のスライドをデジカメや携帯で撮影していたのが気になりました。禁止すべきではなかったでしょうか。

・もう少し書籍販売等自由に見ることができる時間がほしかったです。

4. 次年度の学会に希望すること、取りあげてほしいテーマなど

・学術集会なので、ワークショップは養護教諭が行う研究や実践のあり方に特化していただきたい。

・養護教諭は、一人では児童生徒の健康課題に取り組むことに難しさがある。教育活動の中で連携をどのようにすれば課題解決につながるか。

・“養護”の専門性、差別化、チーム学校に入るとのこと。

・四肢の状態に関する健康診断(H.28からの項目)

について先行実施されている県の状況などが聞きたいです。

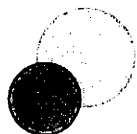
アンケートにご協力いただきました方々にお礼を申し上げます。皆様からの貴重なご意見・ご要望は、第24回学術集会の実行委員会へ申し送りさせていただきます。

学会参加者の声

「第23回学術集会に参加して」

吉田 智子（関西創価中学校・高等学校）

昨年、本学会に入会し今年で2回目の参加です。今年も多くすばらしい先生方との出会いを楽しみに参加させて頂きました。初日は学校行事と重なりどうしても参加をすることができなかつたため、2日目始発電車で向かい、着いた熊本駅で「いきなり団子」を購入し、熊本県に来たという実感を少しばかりかみ締めながら会場入りしました。今年は、健康教育の領域で「学校における心肺蘇生教育の効果的な指導方法に関する研究」をテーマに発表させて頂きました。発表後、貴重なご意見やご感想、また先生方が現場でご努力されている様子などを伺うことができ、発表することでの学びは、やはり大きいと痛感いたしました。また、発表される先生方に共通することは、児童生徒のために養護教諭として何ができるのかという探究心が研究のきっかけになっていることに改めて気づかされました。昼食時は大阪の私学会で一緒させて頂いている先生と熊本ラーメンを食べながら、グローバル化の波が保健室にも押し寄せているという共通認識のもと、どのように対応していくべきか、保健室の未来像について語り合いました。今回の学術集会は、参加時間は短かったものの大変内容の濃い時を過ごすことができました。来年、北海道で多くの先生方と再会できることを楽しみにしながら、日々の保健室経営に邁進していきます。



「日本養護教諭教育学会に参加して」

井上 由貴（尚綱大学短期大学部附属幼稚園）

私は、今回の学会において、大学の卒業研究で取り組んだ「養護教諭が作成する保健だよりについての検討」という内容について発表させていただきました。多くの学校で発行されている保健だよりを、養護教諭はどのような目的や思いで作成しているのか、またそれを踏まえて「よりよい保健だよりのあり方」について考えたことや学んだことがたくさんありました。しかし、実際に教育現場で勤務するようになると、多様な職務の中で、研究を通して学んだ多くのことを生かしながら保健だよりを作成・発行することの難しさを感じることもありました。

そのような中で、今回の学会に参加するにあたり、自分たちの研究についてももう一度見直し、発表に向けての準備を通して、もう少しこういうところが工夫できるのではないかと自分自身の向上心を高めることができました。また、私の発表を聞かれた先生方から、保健だよりに関して工夫しておられることを紹介していただいたり、他にも学会に参加されていた様々な先生方の研究発表に触れたりすることで、「学び続ける」ということの大切さを実感しました。学会に参加し発表するという貴重な経験をさせていただき、深く感謝しております。毎日の職務の中で様々なことを学びながら少しずつ経験を積み、日々精進していきたいと思っております。

第23回学術集会プレコンgres報告

理事会（養護教諭の資質能力向上検討ワーキング）

2015年10月10日（土）の9:30~11:30、くまもと森都心プラザ5階多目的ホールにおいて、「養護教諭の資質能力向上に関する教育内容の検討」をテーマに、プレコンgresを開催した。参加者は53名で、現職養護教諭が24名、養成関係者が21名、行政関係者が3名、学生が5名であった。

プレコンgresの内容は、以下の通りであった。

1. プレコンgresの趣旨説明（宮本理事）

2. 養護教諭の資質能力向上に関する近年の動向についての説明（後藤理事長）
3. ワークシートを活用しながらのグループワーク
4. 各グループの検討内容についての発表と共有
5. アンケート記入

2の近年の動向では、教育再生実行会議での検討や中央教育審議会の初等中等教育分科会での検討等について説明があった。ダイジェスト版の資料で、①チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（中間まとめ）、②これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中間まとめの概要）、③教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）の概要、④養護教諭の免許制度を活用しての説明であった。

3のグループワークについては、現職養護教諭、養成関係者など職種毎による4人程度の10班に別れて、①日頃の養護実践を振り返ったり想定したりしながら、②知識・技術や考え方などの必要とされる資質能力は何か、③養護教諭養成や現職養護教諭の研修のためにどのような教育（学習）内容が必要であるか等について検討した。

4の発表内容やグループワークの結果の一部を紹介する。「養成では実際の実践に即して、科目を統合するような形で保健室経営を学ぶとよい」「養成機関の教員と養護教諭とのT・Tでの協働授業があってもいいのではないか」「現場の声（実態）を活用し、実際にシミュレーションできるような模擬保健室での実習はどうか」等があげられた。また、「養護教諭として、児童生徒を発育発達の視点で理解する力が必要ではないか」「学び続ける養護教諭であることが必要ではないか」「養護教諭や保健室の事を管理職や先生方（又は教師志望の学生）に学んでいただく機会があれば、もっと、協働しやすくなるのではないか」といった意見もあった。学生からは、「養護教諭の資格が取れる大学が様々で不安である。1、2年生でしっかり養護教諭としての土台となるものをきちんと学べるようにしてほしい」という意見があった。

5のアンケートからは、「養護教諭の職務、役割について、あらためて見直すことが出来た」「時代と共に、

養護教諭に求められている資質や能力が変化してきていると痛感させられた」「同じ立場で頑張っている先生方からエネルギーを頂いた」「入学から現職まで一連の過程の中での課題が明確にされたが、連携した教育が必要だと思った」等の感想があった。

一方、「時間が足りなかった」「次の議論に進むために、抽象的な議論ではない具体的な検証を進めていく必要があると感じた」「言葉の説明（課程認定）がほしかった」「テーマを絞っていただくと考えやすい」という意見もあり、今後の企画運営の際に検討し、さらなる充実をはかりたい。

今後のプレコンgressで扱ってほしいテーマでは、「養護教諭固有の専門性についてテーマを絞って行ってほしい」「連携に関すること」「今回出されたことを継続で」等の意見が出された。今後の検討に生かしたい。

私の県の「ここが特色」⑯

『新潟県、ここが特色』

丸山 幸恵（新潟県上越市立高志小学校）

新潟県は、新潟県養護教諭研究協議会という組織を母体として研修・研究を進めています。会員数は897名で、県内国公私立の幼稚園、小・中学校、中高一貫学校、特別支援学校、高等学校の県内養護教諭が所属しています。会設置の目的は、「養護教諭の職務について研究し、会員の資質の向上と学校保健の発展に寄与する」となっています。小・中学校、高等学校の副会長が研究推進委員長を兼ね、全体の研究推進役を担います。研究主題は、小・中学校部と高等学校部に分かれて設定され、2年間を1サイクルとしています。今回ここでは、小・中学校部のことを紹介します。

【研究を推進する3本柱】として、全県調査研究、支部研修・研究（県内22支部より構成）、個人・グループ研究（県内4地区から各1名）から成る研究体制をとっており、このことが特色だと思っています。これにより、それぞれの角度から日常実践を省察し、研究的な視点から見直し意味づけていくことを意図して進めています。

全県調査研究は、インターネット回答による調査を

実施し結果の分析から論文を作成します。前回、平成25・26年度調査では、回答率が100%だったことから、この調査研究に対する会員の意識の高さや研究体制への共通理解が伺えると思っています。小・中学校部の平成27・28年度の研究主題は、「児童生徒の『生きる力』を育む学校保健の充実を目指して」であり、これを受け、全県調査研究のテーマは、「学校保健活動を組織的に推進するための養護教諭のコーディネーション」としました。現在、12月の調査実施に向けて検討を重ね、準備をしているところです。結果から養護教諭のコーディネーション行動の独自性を追究し、学校現場の養護教諭の役割機能発揮に寄与したいと考えています。支部研修・研究は、各支部の研究推進委員が中心となって、支部の課題に合わせた取組テーマを選定し充実を図ります。今回の取組テーマは、「保健教育」「健康相談」が多く、養護教諭や学校現場の喫緊の問題を反映していると推察されます。また、個人研究は、選出された4名が勤務校の健康課題に合わせ、実践研究を今進めているところです。これらの成果は年1回発行される研究誌「耀」に掲載し、会員の共有・活用が図られます。

このような研究体制（全県・支部・個人）をとることにより、研修・研究への全員参加、日常の養護実践の向上と充実、研究に対する力量向上、そして間近に迫った世代交代期を見据えた会員間の交流の機会となるようにしています。

『私の実践と研究』リレー・レポート⑧

School Nurses International Conference 参加報告

佐藤百合子（法政大学第二・中高等学校）

7/27～31日イギリスロンドンで開催されたSNIC (School Nurses International Conference) に参加した。会場のグリニッジ大学はロンドン市内からUnder Ground（地下鉄）とDLR（東部の高架鉄道）で短時間移動可能なテムズ河沿いの美しい自然に囲まれたキャンパスにあった。大学施設は世界遺産の旧王立海軍大学の歴史的建造物が利用されている。徒歩圏内

のグリニッジ天文台は歴史的観光名所である。猛暑の東京と一転、街にはコートを着込む人の姿もあった。SNIC参加は初の試みであり不慣れながらもポスター発表に臨んだ。

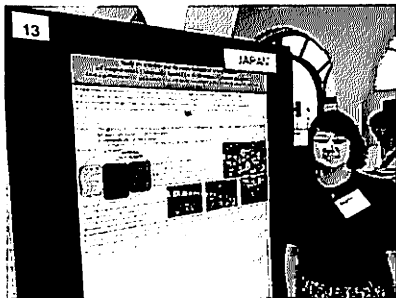
テーマは「Study on activities and the characteristics of school children at Comprehensive Community Sports Club to participate in parents and children（親子参加型総合型地域スポーツクラブの活動と参加児童の特徴）」で、勤務校の国内研究員として東京学芸大学修士課程在学中に養護教育講座朝倉隆司先生の御指導のもと行った研究である。

近年、子どもの身体活動の減少や体力低下が注目され、その解決策として、運動の機会や遊び場の提供など体力向上などを目的とした様々な運動プログラムが存在する。調査対象とした「やんちゃるジム」は多種多様な運動種目の特徴的なプログラムを展開し、国の施策に沿った相模原市の総合型地域スポーツクラブである。必ず親子共に参加する、参加費は親子一組200円/回、主宰者（保健体育教員有資格者）や運営スタッフは地域の保護者達で、多くは参加児童の親でもある等の特色を有する。地域の小学校体育館を活動拠点とし、アットホームさが好評で口コミで拡がり、400名程だった会員は設立10年で1,000名近くに増え、市や他のスポーツ団体からもその発展に期待が寄せられている。本調査の結果、特徴的活動内容やねらいが参加児童の肯定的な運動への取り組み姿勢を動機づけているだけでなく、向社会的な意識にも広がる社会性の滋養にも概ね好ましい影響が示唆された。N数が小さく、一般化には限界や課題もあるが、ひとつのモデル提案として、また、調査協力頂いた運営スタッフへの感謝の意も込め、海を渡り報告に踏み切った。

SNICでもイギリスの子どもや若者の「overweight and obesity 肥満、physical activity 運動、poverty 貧困、tobacco 喫煙」等が社会問題として注目され、多くのセッションで話題とされていた。そのような背景もあってか、私のポスターに足を止め「大切なことね」と感想を語り、賛同してくれる参加者と出会うことが出来た。また、食い入るように紙面を見つめ「す

ばらしい」と感嘆する青年の姿があり、なぜ強い興味を示してくれたのか十分に確かめなかったことを後悔している。子どもの運動習慣を興味深く主体的に定着させるにはどうすべきかについては、日英共通の課題であると感じた。

今回の参加は、東海大学健康科学部籠谷先生からの誘いによるものであった。先生との出会いは、東京学芸大学養護学研究会がきっかけである。この研究会は、修生生、卒業生、修了生同士の情報交換や信頼できる先生方からの貴重な助言の場でもあり、努力次第では研究的視点や観察力・分析力の向上や維持を可能とする。研究を得意としない私は、「長期に勤務すれば実践を積むことは出来るが、意義や目的を明確にした適切な方法による計画的な調査活動と正確な統計解析による研究の継続は容易なことではない」と日頃考えている。この会への参加が私にとってのセーフティネットであることも添え、報告としたい。



トピックス

中央教育審議会

初等中等教育分科会の審議状況について

- ①本年10月28日に「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(答申案)に関するパブリックコメントが11月14日必着で募集されました。この答申案には養護教諭のことが記載されていませんでしたので、本学会からコメントを提出しました。
- ②本年11月19日に「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(答申(素案))に関するパブリックコメントが12月2日必着で募集されました。この答申(素案)には養護教諭に関する記載もありましたので、本学会からコメントを提出しました。文部科学省HPでご確認ください。

この度の中教審の審議は、養護教諭の未来にかかわる重要事項であると考え、平成19年12月のパブリックコメント提出に際して組織した「養護教諭関係団体連絡会」を本会の声かけで招集し、共通理解できる内容について共同のコメントを提出しました。

また、11月19日(木)に文部科学省にて馳文部科学大臣に面談し、上記連絡会として「養護教諭の養成・採用・研修の充実にむけて(要望)」をお渡ししました。

2015年度総会報告(速報)

古賀由紀子(総務担当常任理事)

2015年度総会は第23回学術集会(くまもと森都心プラザホール)において170名(含む委任状110名)の出席により、松田芳子学会長と香田由美会員の議長のもとで開催されました。以下に審議・承認された議案の概略を報告します。

2014年度事業報告、2014年度決算・監査報告、2015年度事業経過報告、2015年度補正予算審議、2016年度事業計画、2016年度予算は原案通りに承認されました。

「養護教諭の倫理綱領(最終案)」について、三木学会活動担当常任理事より会員への意見聴取から新たに追加された条文第13条について「養護教諭の倫理綱領検討特別委員会」での検討の経緯説明の後、原案通り(今回、同封)承認されました。第13条の説明文中の「別に定める養護実践基準」の内容を出来るだけ早く具体化するよう要望が出されました。

2016年度研究助成金対象研究の選定では、「養護教諭養成教育における養護原理の理解深化のための教育プログラム開発～養護教諭とのかかわりを通じた養護原理の探索的概念生成の試み～」(鹿野裕美、鎌塚優子、斎藤千景)について、「養護原理」の文言を吟味するという条件付きで採択することが提案され承認されました。

第25回(2017年)学術集会は、金沢市で行うことが理事長より報告されました。

総会終了後、第24回学術集会の今野洋子学会長より、2016年10月8日(土)～9日(日)に北翔大学(江別市)にて開催するとの挨拶がありました。

2016年度「研究助成金研究」ならびに
第23回学術集会「投稿奨励研究」選定報告

鈴木 裕子（学術担当常任理事）

2016年度研究助成金対象研究は、2015年9月10日締切で募集し、研究助成金研究の選定に関する内規（2013年度制定）に則り、2015年10月9日に開催された第3回理事会において研究の目的・独自性、研究方法、助成金の使途等について審議を行いました。その結果、研究代表者 鹿野裕美さん（宮城大学）による「養護教諭養成教育における養護原理の理解深化のための教育プログラム開発～養護教諭とのかかわりを通じた養護原理の探索的概念生成の試み～」の1題について、①テーマをより簡潔に整理すること、②「養護原理」という用語について吟味すること、の2つの条件を付して選定し、2015年度総会にて承認をいただきました。研究成果は機関紙ハーモニーおよび学術集会でご報告いただいたのち、助成期間終了後はおおむね1年以内に学会誌への投稿をお願いします。来年度も研究助成金対象研究を本年度と同様に募集する予定ですので、会員の皆様には積極的にご応募いただきますようご準備をお願いいたします。

一方、学術集会の一般発表から優れた研究を推薦し学会誌への投稿を奨励する「投稿奨励研究」につきましては、第23回学術集会の一般演題座長および本学会理事に依頼してご推薦をいただき、メールによる理事会で選定を行いました。その結果、複数の推薦を受けた米井美紀子さん（宇土市立緑川小学校養護教諭）の「校内研修での養護教諭の役割と研修の視点」1題を今回の投稿奨励研究として選定し投稿奨励を行いました。特典として学会誌に投稿の際に査読費用7,000円が免除されます。次回の第24回学術集会（北海道）でも実施します。養護教諭教育の発展につながるような養護教諭の視点によるご研究を特に期待しています。

問い合わせは学術担当常任理事まで。

国士館大学文学部 鈴木 裕子

e-mail:suzukiyu@kokushikan.ac.jp



学会誌第20巻第1号投稿原稿の募集

斉藤ふくみ（編集委員会委員長）

本学会誌は創刊より20巻を迎えることになりました。第20巻第1号は、通算で25冊目になります。後藤理事長からは、「養護教諭の専門性を支える学問構築を提示すること」がこれからの学会誌の使命として示されています。「養護教諭」を冠する唯一の学会誌として、社会の変動を見据えつつ、養護教諭が専門職として一層活躍できるための基軸となる学術的理論を提供できるよう、さらに質の高い学会誌を目指していきたいと思えます。

近年は、会員の皆様に余裕をもってご投稿いただいております。感謝申し上げます。原稿は年間を通じて受け付けていますが、第1号（9月発刊予定）に掲載をめぐりず場合は3月末日が締め切りとなります。しかし、これはあくまで目安です。査読及び修正の進捗状況によっては、掲載が次号になる場合がありますことをご了承ください。投稿をご予定されている会員の皆様は、ご準備をお願いいたします。

本学会誌は、養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動に関わる研究成果（論文）を募集しています。過日開催された第23回学術集会で発表されたご研究をまとめていただき、ご投稿されますことをお待ちしております。

なお、2014年度総会において学会誌投稿規定の改正がなされました。改正点は、原稿の種類から論壇がなくなったこと、同封していただくものから返信用封筒3枚が削除されたこと等です。投稿される際には、投稿規定及び投稿原稿執筆要領（学会誌第19巻第1号54～61頁）を熟読し、十分に推敲した原稿をお送りください。

<編集委員会事務局>

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号

茨城大学教育学部教育保健教室

斉藤ふくみ

TEL/FAX 029-228-8298

e-mail:fukumi.saito.naru@vc.ibaraki.ac.jp

日本養護教諭教育学会2015年度 第2回理事会議事録 (概要)

古賀由紀子 (総務担当常任理事)

- 1 日時：2015年7月18日 (土) 14:00~17:00
- 2 場所：名古屋国際センター5階 和室
- 3 出席：大川、加藤、古賀、後藤、小林、斉藤、鈴木、塚原、圓岡、三木、宮本、森 幹事：稲垣
- 4 議題：
 - 1) 2015年度第1回議事録(案)の確認について
 - 2) 2015年度事業経過報告について
 - ①学会活動担当常任理事より、養護教諭の倫理綱領検討、養護教諭の資質力量形成の教育内容検討、プレコングレス、用語の検討の各担当者が報告された。なお、プレコンの企画には学術担当、学会誌編集担当、総務担当から各1名をメンバーに加えることが提案され、承認された。
 - ②学術担当常任理事より、2015年度の活動状況の中間報告と今後の予定、研究助成金対象研究に関する提案がなされた。
 - ③学会誌編集担当常任理事より、学会誌編集業務にあたっての改善事項の提案がなされた。また、ハーモニー担当理事より、ハーモニー第68号の企画案の提案がなされた。
 - ④総務担当常任理事より2015年度事業経過報告がなされた。また、事務局長から、20周年記念誌等の残部の販売とホームページの更新の検討が提案された。さらに、幹事1名の増員について報告がなされた。
 - 3) 2015年度総会についての確認
資料をもとに2015年度総会議事の検討確認がなされた。
 - 4) プレコングレスについて
学会活動担当理事から、プレコングレスの企画について検討中であることが報告された。
 - 5) 養護教諭の倫理綱領に対する意見について
学会活動担当常任理事から、倫理綱領に対する会員からの意見の報告がなされた。

事務局より

圓岡 和子 (事務局長)

◎住所変更等の届について

来年3月下旬に学会誌第19巻第2号をお届けします。例年、大学院生や大学生の方で新たに就職し転居された方の学会誌が宛先不明となって返送されてきます。所属先や自宅住所、発送先が変更になった場合は、すみやかに事務局までご連絡ください。その際、学会誌巻末の「会員登録」変更届をご利用のうえ、FAXもしくは、同様の内容をEメールにてお送りください。

◎会費納入のお願い

年会費未納の方に、振込用紙を同封しましたので、至急入金をお願いします。年会費が2年分滞った場合、学会誌の発送を一旦見合わせております。また、退会届を出しても、滞納分の会費は全額お支払いいただくこととなりますので、ご注意ください。

◎学会誌等を送る際に、今後、郵送料節約のために透明の袋を使用することになりました。

計報：平成27年12月4日(金)に本学会名誉会員の杉浦守邦先生(94歳)がご永眠されました。
養護教諭への熱い想いと本学会への温かなご支援に心より感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りしたいと思います。

編集後記

今年も残すところあと僅かとなりました。会員の皆様にとりまして今年はどうな1年だったでしょうか。

10月の熊本の学会では、くまモンと玉名みかんに癒され、学会長をはじめとした事務局の皆様のおもてなしにとっても感動しました。

年末になって、教員の資質能力の向上やチームとしての学校の在り方など、養護教諭に関わる多くの動きがありました。今後もその動向をしっかりと見据えていく必要があると考えます。

いじめや虐待など子どもたちをめぐる状況はますます複雑・多様化しています。来年もすべての子どもたちに、そして会員の皆様にとって素晴らしい1年でありますように願います。(O. N.)